

留学生対象インターンシップ & 仕事体験プログラム

STUDY KYOTO

Deep into kyoto, Deep into yourself



インターンシップ
& 仕事体験

実施報告

2025年プログラム実施報告



1. 留学生対象インターンシップ&仕事体験事業の概要

(1) 事業目的

- ・京都地域在住留学生に、京都地域の企業(特に中小企業)・団体において就業体験の機会を提供することにより、その事業内容や日本における企業・組織文化に対する留学生の理解を促進し、就職意欲の醸成を図る。
- ・留学生と企業・団体との相互理解による、卒業後の京都における採用促進、及び就職後の定着を目指す。

(2) 事業概要

[対象学生] 京都地域の学校に在籍する留学生

※留学生スタディ京都ネットワーク加盟校の在籍者に限る。

※専修学校在籍者、母国等で高等教育機関を卒業・修了した日本語学校在籍者を含む。

[対象企業・団体] 京都府内に本社または支社・事業所等を置き、京都府内で留学生の受入が可能な企業・団体

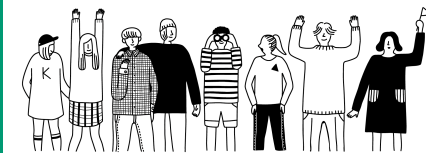
[実施内容] 2025年8月12日～9月26日にかけて、「インターンシップ」または「仕事体験」を実施

※参加留学生に対しては、事前の選考・マッチング・事前事後指導を実施。

(3) 今年度の変更点

- ・前年度まで実習期間5日間以上の「インターンシップ」のみを取り扱っていたが、実習期間2～4日間の「仕事体験」を新設した。
- ・同時に、本プログラムにおける実習の上限を10日間と設定した。
- ・対象となる留学生の学年は不問で募集を行った。

2025年プログラム実施報告



(4)プログラムの流れ

① 留学生向けガイダンス

2025年5月21日(水)18:30~20:00
2025年5月23日(金)18:30~20:00
2025年5月24日(土)14:00~15:30
[実施方法] 対面およびオンデマンド配信

② 企業・団体との交流会

2025年6月14日(土)
全学生対象 12:00~17:00
[実施方法]対面

正式エントリー受付(~6/16)

③ 個別面談による選考・マッチング

2025年6月20日~26日にかけて、個別面談(45分、オンライン(Zoom))を実施。
◆日本語力や日本での就職意欲の確認 ◆専攻や将来の目標、就業先希望などのヒアリング

留学生および企業・団体への結果通知(7月12日)

④ 事前研修(2回)

集合研修 2025年8月6日(水)9:30~12:30または14:00~17:00 3時間
個別面談 実習開始1週間前を目途にオンライン面談を実施(1人60~90分)

⑤ 受入企業・団体でのインターンシップまたは仕事体験

2025年8月12日~9月26日に実習を実施 ※日程、期間は受入先と個別調整

⑥ 事後研修

個別面談 実習終了1週間後を目途にオンライン面談を実施(1人60~90分)

2025年プログラム実施報告



2. 本年度のプログラム実施規模

(1) 留学生、受入企業・団体数の目標と実績

	目標	実績
実習参加(修了)留学生	40名	19名(のべ26名)
実習受入(終了)企業・団体	40企業・団体	14企業・団体

(2) 留学生の参加状況 ※2020年からの比較

留学生数	2025	2024	2023	2022	2021	2020
①総申込数	81名	66名	128名	109名	112名	71名
②ガイダンス参加者数	27名	34名	49名	35名	62名	動画公開
③交流会参加者数	32名	22名	45名	47名	43名	40名
④正式エントリー者数	29名	21名	42名	38名	46名	42名
⑤インターンシップ&仕事体験マッチング者数 ※()内は延べ数	21名 (28名)	16名 (24名)	22名 (27名)	23名	27名	6名
⑥プログラム修了者数 ※()内は延べ数	19名 (26名)	15名 (21名)	21名 (25名)	21名	26名	6名

2025年プログラム実施報告



(3) 留学生の出身・所属校別状況

出身国・地域	申込	エントリー	修了
中国	62	23	16
韓国	5	3	2
ネパール	5	0	0
台湾	2	1	0
ミャンマー	2	1	0
マレーシア	2	0	0
ベトナム	1	0	0
インド	1	0	0
ウクライナ	1	1	1
合計	81	29	19

所属校	申込	エントリー	修了
京都情報大学院大学	24	6	4
同志社大学	21	13	9
龍谷大学	5	1	1
京都芸術大学	5	1	1
立命館大学	4	2	1
京都大学	4	0	0
京都文化日本語学校	3	1	0
京都工芸繊維大学	2	1	0
京都民際日本語学校	2	2	1
ISI日本語学校	2	0	0
同志社女子大学	1	1	1
京都外国語専門学校	1	1	1
京都産業大学	1	0	0
佛教大学	1	0	0
京都コンピュータ学院	1	0	0
京進ランゲージアカデミー	1	0	0
日本語センター	1	0	0
日本国際語学アカデミー	1	0	0
合計	81	29	19

2025年プログラム実施報告



(4) 留学生のその他データ

卒業年次	申込	エントリー	修了	日本語レベル	申込	エントリー	修了
2025年9月	4	2	1	N1レベル	42	18	12
2026年3月	16	5	3	N2レベル	28	10	6
2026年9月	11	5	4	N3レベル	7	1	1
2027年3月	39	11	8	その他	4	0	0
2028年3月	5	3	2	合計	81	29	19
2029年3月	5	3	1				
その他	1	0	0				
合計	81	29	19				

専門分野別	申込	エントリー	修了
文系 (人文社会・芸術)	51	22	15
理系 (理・数・工・化・医薬・情報)	30	7	4

2025年プログラム実施報告



(5)受入企業・団体データ

企業・団体数	2025	2024	2023	2022	2021	2020
①受入エントリー（インターンシップ）	13	有給6 無給12	有給9 無給9	有給12 無給11	有給9 無給9	有給6 —
（仕事体験）	6					
②実習受入（インターンシップ）	9	有給5 無給10	有給7 無給7	有給6 無給9	有給7 無給8	有給5 —
（仕事体験）	5					

- ・2024年までは、「有給インターンシップ」「無給インターンシップ」という区分であったが、2025年は「インターンシップ」「仕事体験」で区分している。
- ・エントリー数には、事情により受入辞退になった企業も含む。
- ・受入数には、留学生の辞退等により実習中止となった企業は含まない。

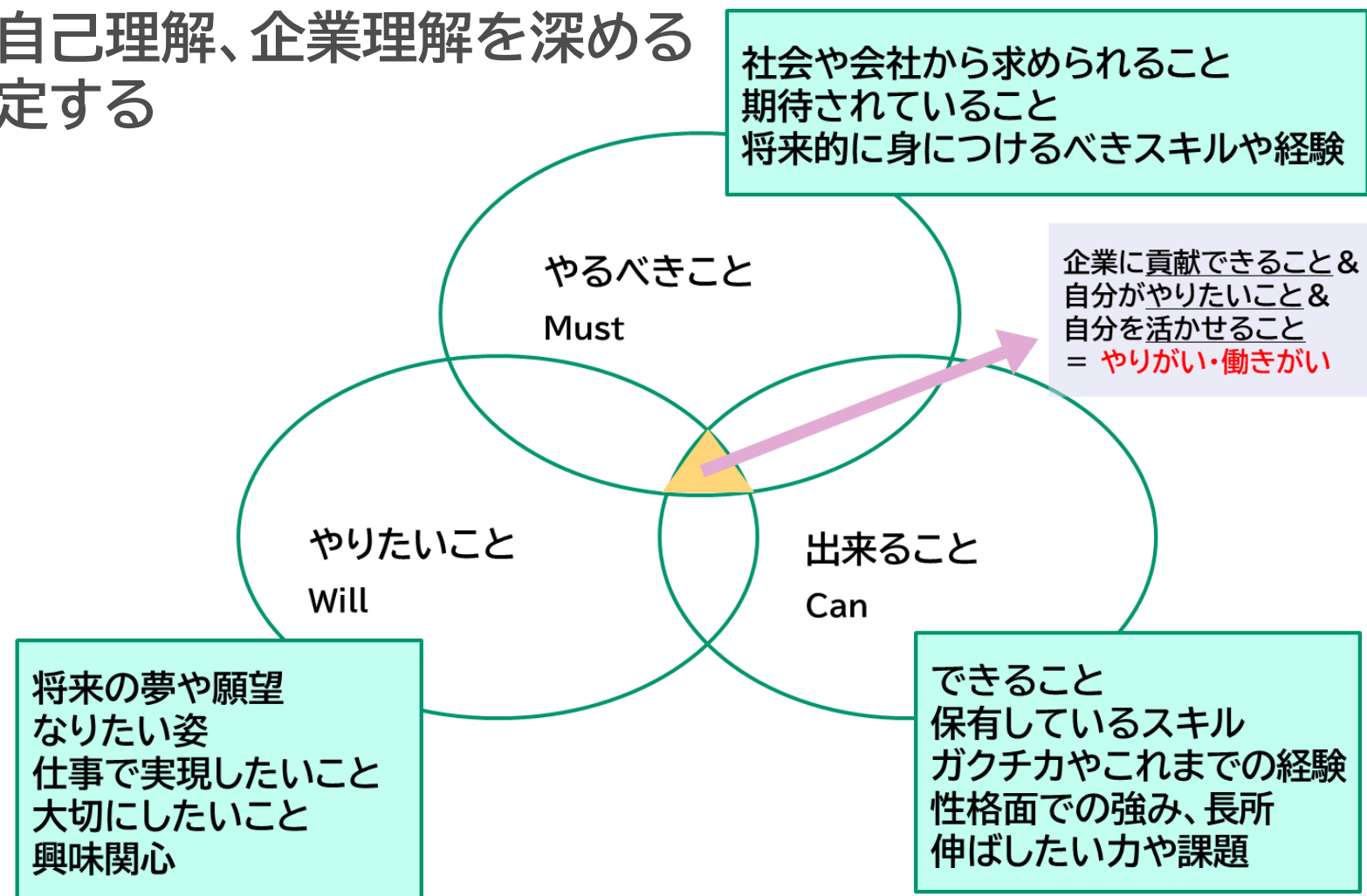
業界別	エントリー 件数	受入決定 件数	過去のお受入れ		
				エントリー 件数	受入決定 件数
メーカー	5	3	今年度初めて受入	8	5
サービス	9	8	2024年に続き受入	10	8
IT・ソフトウェア	1	1	2023年以前に受入あり	1	1
卸・小売・商社	2	0	合計	19	14
その他団体	2	2			
合計	19	14			

本プログラムにおける取り組み



企業・団体での実習に向けた準備

- ①事前研修・面談を通し、自己理解、企業理解を深める
- ②実習に向けた目標を設定する

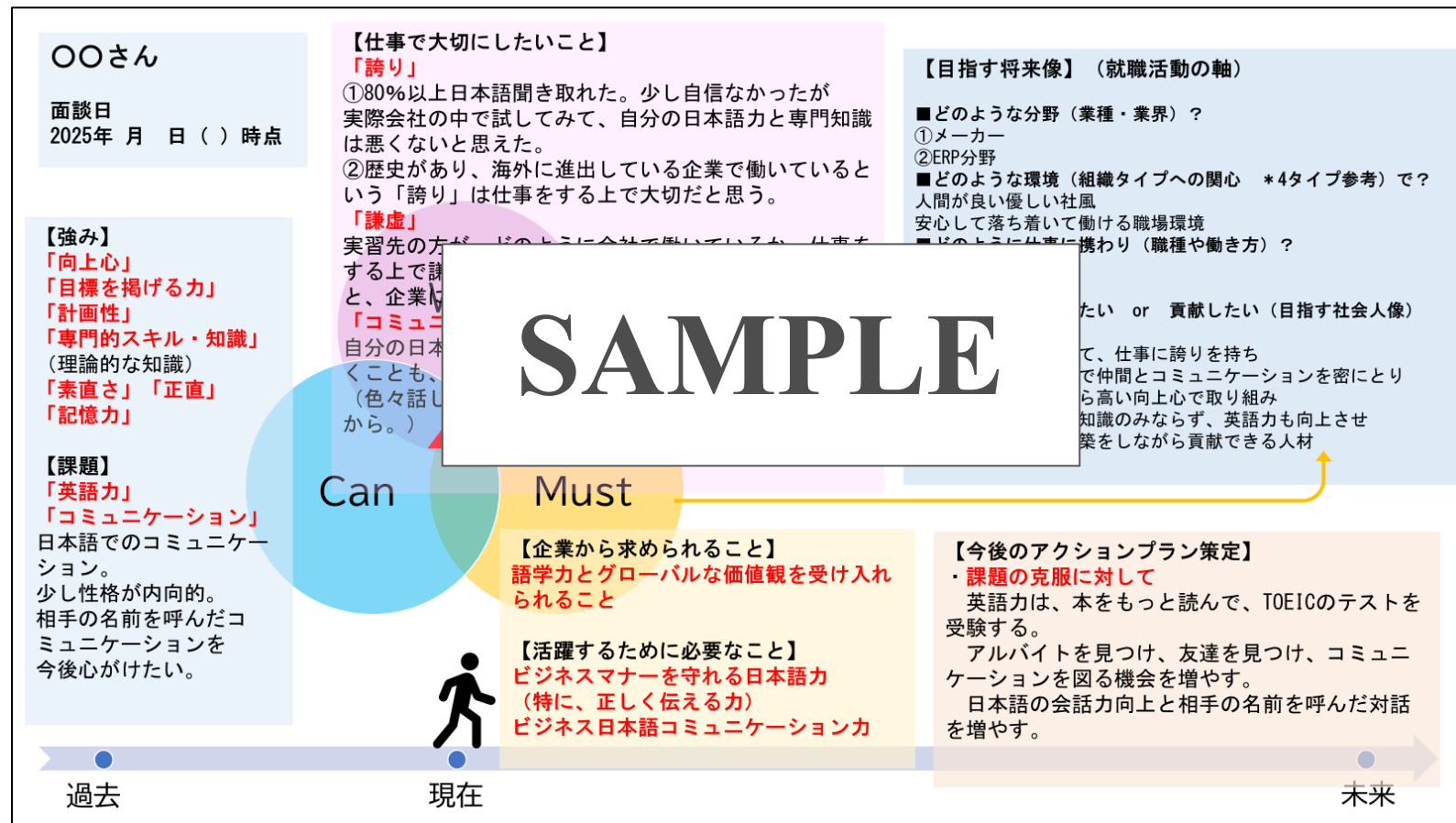


本プログラムにおける取り組み

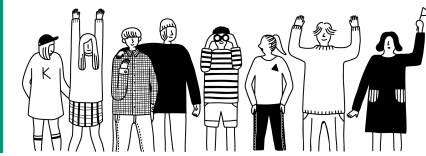


実習後の振り返り

- ① 報告書の作成により、実習から得た気づきや学びを整理
- ② 面談を通し、今後に向けた新たな目標や方向性を確認



プログラム修了生アンケート 感想や意見



1. 実習期間について

インターンシップ(5~10日間)参加者は、全員「ちょうど良い」と回答
仕事体験(2~4日間)参加者は、全員「やや短かった」と回答

2. 本プログラムを通して得たこと、満足したこと

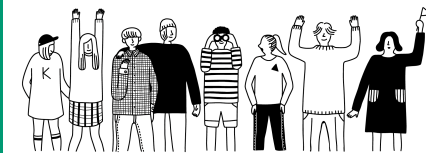
◆自己理解、自己成長に関すること

- ・実習を通して、自分の「強み」と「課題」に気づいた。
- ・粘り強さと目的意識の大切さを学ぶとともに、特に時間管理の重要性を実感した。
- ・将来の目標、就活の軸がハッキリした。
- ・インターンシップ前後に相談があったことがとても役に立った。

◆企業・仕事理解に関すること

- ・ホテルでの仕事を全体的に把握できた。普段触れない部分を今回のチャンスで知った。
- ・大学で学んだSNSマーケティングの知識を実際の仕事の中で使うことができ、勉強になった。
- ・不動産業務の知識が得られた。

プログラム修了生アンケート 感想や意見



3.本プログラムを通して苦勞したこと、不満を感じたことや、改善が必要と思ったこと

◆プログラム全体に関すること

- 交通費補助がないこと

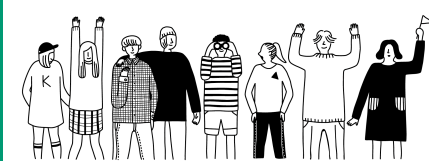
◆自分自身に関すること

- 日本語で意見をちゃんと表現することが難しかった。
- コミュニケーション能力を伸ばす必要がある。

◆実習体験に関すること

- 担当の方によって指導の度合いに差があった印象がある。(インターンシップ10日間の参加学生)
- 実務経験の量が少し少なめだと感じた。(インターンシップ5日間の参加学生)
- 実習の前に、会社のことを少し知るための半日くらいのオリエンテーションがあれば、もっとスムーズに実習に入れたのではないか。(仕事体験2日間の参加学生)

プログラム修了生アンケート 感想や意見



4. 実習先に関すること

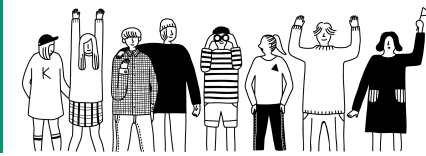
◆ 実習先からの指導について

- 丁寧に指導してもらえたし、幅広い業務を実践できた。
- サポートをしてくれるので、心配なく参加できる。(もちろん、自らもちゃんとするべき)
- 指導がとても丁寧で、SNSマーケティングの実践的な体験ができた。
- 丁寧に指導してもらえたので、確実に日本語力やマナーが身に付いた。
- 各部署の業務内容や特徴について丁寧に説明してもらえるので、やりがいを感じた。

◆ 実習先は就職先として魅力的かどうかについて

- 留学生としての視点を活かした意見や提案が期待されており、将来的に業務に取り入れる意向もあると感じられた。
- 語学や国際感覚を活かして活躍できそうで、仕事のやりがいを感じた。
- 業務の内容や社風は合っていると思うが、企業規模が小さくて不安がある。
- 日本の企業の仕事の進め方やチームでのコミュニケーションの大切さを学び、こういう環境で自分も成長できると感じた。
- もう少し他の業界も見てから、じっくり考えたい気持ちもある。
- 業界そのものへの関心が高くないので、判断が難しいが、会社の文化は素晴らしく、尊敬している。

プログラム修了生アンケート 感想や意見



5.本プログラムへの提案、意見

◆ 事前・事後研修に関すること

- ・インターンシップの前後の相談はまだ言語化がむずかしい留学生にとってとても貴重な機会だった。(回数を希望者に限っては増やしてもいいと思う。)
- ・プログラムの最後の振り返りはとても役に立った。自分の学びや課題を整理できて良かった。

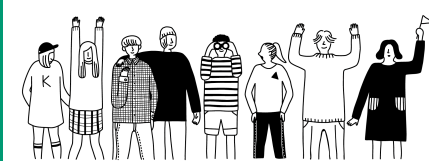
◆ 交流会に関すること

- ・正式エントリー前の交流会はすごくいいと思った。実際に交流会で話した企業に応募したくなるし、意欲が上がる。会社の雰囲気も何となくわかるので、すごく有意義だと思う。

◆ 参加学生へのサポートに関すること

- ・指導もすごく丁寧で、交流会の雰囲気もとても安心できた。
- ・交通費の補助があれば、留学生はより積極的かつ長期的に参加できるかもしれない。

受入企業・団体アンケート 感想や意見



1.本プログラム受入のメリット、デメリットに関して

◆ 仕事体験(2~4日間)の受入企業

・今回はじめて2日間という短期間での受け入れをしましたが、マーケティング系の方は適正、デザイン系の方は期間として短かったor学生の希望を考慮したテーマ設定が難しいと感じました。

(デザイン系の方はスキルがあれば別かもしれませんが、基本的には体験の場としての提供で、弊社にとってのメリットが少なかった。)

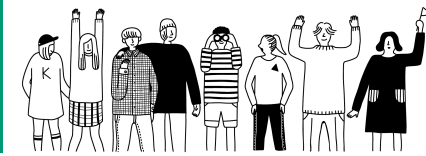
そういった点で、弊社としても勉強になりました。次回の参考(期間や受入人材の条件設定)にしたいと思います。

・企業側としては、準備や受け入れにかかる時間が少なく、負担を軽減できるというメリットがありました。一方で、受入期間が短い分、体験内容がどうしても浅くなってしまい、留学生のことを十分に理解するまでには至らないという課題も感じました。

・ソフトウェア技術者に外国人材を入れることに難色を示す部署もあることは事実です。(注:クライアントとの機密保持契約等の問題による)

何の仕事を外国人材に任せるのか、社内の調整が必要だと感じた。良い方がいれば採用するが、今回は初めての受け入れで雰囲気をつかむ目的だった。

受入企業・団体アンケート 感想や意見



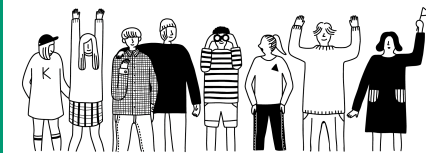
◆インターンシップ(5~10日間)の受入企業

・メリットは、従業員の教えるスキルが上がる 伝えるスキルが向上する。デメリットは、余裕の人員ではないため、業務が滞る。

・このようなインターンシップに参加してくれる学生というのは非常に就職活動に関心が高い学生なのだと感じました。

現在弊社では、「インターンに参加した学生は採用面接で有利」というような規定などは設けていないのですが、今回来てくれた学生たちがもし弊社に来てくれるならば、是非一緒に働きたいなと感じる方ばかりでした。

受入企業・団体アンケート 感想や意見



2. 本プログラムへの期待、提案

・日本人学生の受け入れも別途おこなっているのですが、異文化交流の機会も兼ねて仕事体験ができると、より実践的な社会勉強になるのではないかと考えております。

インターンシップ以外でも、今後イベント等の機会があれば、是非参加したいです。

・様々な面で情報提供や振り返りなどしていただきありがとうございました。お越しいただいた学生様はとても積極的で前向きで、今後、引き続き留学生の受け入れを継続していきたいと強く考えております。

・外国人材受け入れ企業と出会う、留学生と出会う(特に理系人材)カジュアルな交流会の場を定期的に企画いただきたい。

アンケートからの振り返りと今後に向けて



1. 仕事体験プログラムについて

- ・出来ることが限られており留学生、企業双方から課題を指摘されているが、参加のしやすさ、負担の少なさというメリットも大きい。

→仕事体験は、「きっかけ」としてのプログラムとし、終了後に改めてインターンシップが実施できるような2ステップの構成を考えるなど、留学生、企業・団体の意向に沿った工夫を行う。

2. 留学生と企業の交流機会創出について

- ・正式エントリー前の交流会は、有意義だったという声があり、また実際に参加した留学生のほとんどが正式エントリーを行っている。
- ・カジュアルな交流会やイベントの定期的な実施を求める声が企業からも挙がっていた。

→正式エントリー前の交流会、プログラム終了時の意見交換会の実施方法を再検討し、出来る限り多くの留学生、企業が参加し、交流できるように工夫する。

→本プログラム以外に実施されている留学生向け、企業・団体向けの他事業との連携を強化し、留学生、企業・団体への情報提供を行い他事業のイベント等への参加も促すなど、相互に補完し合いながら、留学生、企業・団体のニーズに応える。

アンケートからの振り返りと今後に向けて



3. 留学生への支援について

- ・実習先への交通費補助を求める声は毎年挙がっている。

→留学生の自己負担に関する再検討が必要。受入企業・団体に負担を求めるかどうするか。

- ・自分の考えや希望を日本語で言語化することが難しい留学生の課題に寄り添ったサポートを求める留学生がいる一方で、企業での実習には真剣に取り組むが、それ以外のプログラムへの参加態度にやや問題のある留学生もいた。(そのような留学生はアンケートにも回答していない。)

→本プログラムの特徴をしっかりと伝え、先輩留学生からの体験談を通して、本プログラムの意図を理解してもらう目的で事前ガイダンスを実施しているが、参加者が少なく、十分に理解されていない可能性もある。

正式エントリー前の企業との交流会の機会を活用するなど、ガイダンス以外でも伝えていく必要がある。